

# 多数アンカー



NETIS KT-980087-V



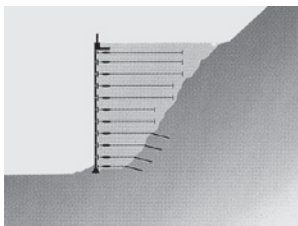
## ▼用途

多数アンカー式擁壁工法は、壁体背面にかかる主働土圧をタイバーを介してアンカープレートに伝達し、アンカープレートの引抜抵抗抗力とのバランスによって安定を図る工法です。こうした構造的な特性、盛土安定性、強度により様々な用途に対応することができます。

道路、水辺、橋梁取付道路、段積擁壁、鉄道等、あらゆる現場で各々の地理、地形条件に応じた最適な設計・施工が可能です。

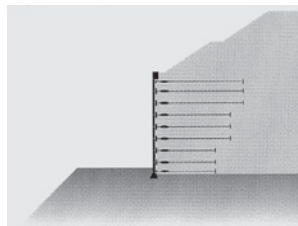
### ▽道路（片盛土・ロックアンカー工）

壁体背面に強固な岩盤がある場合は、ロックアンカーによる施工が可能です。



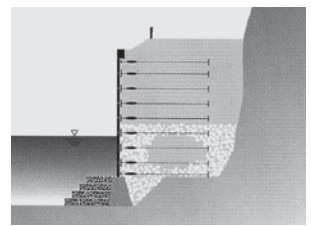
### ▽造成、トンネル、坑口安定（のり留め壁）

補強土壁のもっとも一般的な用途として、造成地やカルバート坑口付近の安定に用いられることが多く、その種類と形式は多岐に渡っています。



### ▽水辺（護岸擁壁）

水位が壁面に達するような場合は水没する部分の盛土材料を透水性のよいものに置き換える等、水没設計をすることにより施工できます。



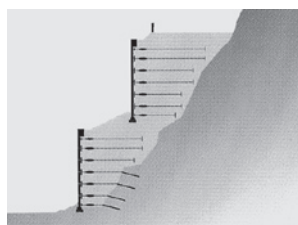
### ▽橋梁取付道路（両面壁）

両面壁の土圧が均合う場合は、左右のタイバーを一体化して安定を確保できます。



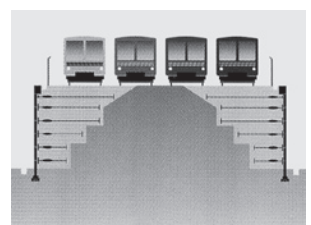
### ▽大規模造成（段積擁壁）

壁高の高さが15メートル以上になるような場合や、タイバー長が長くなりすぎる場合に、擁壁を2段積みにより施工します。



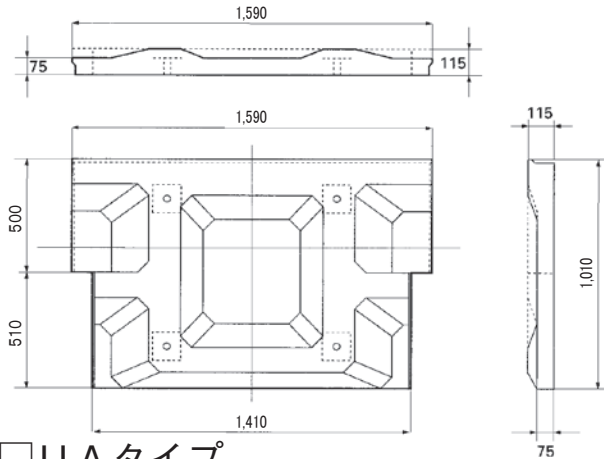
### ▽鉄道の拡幅

鉄道の拡幅を目的とした場合でも、垂直盛土が構築できます。従来の用地幅を最大限に活かして盛土することにより、複々線化が容易に実現します。

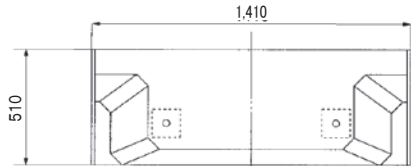


■製品図

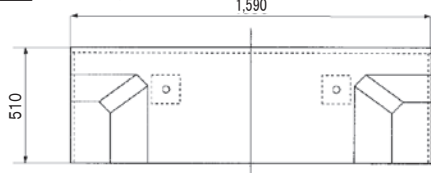
□ T A タイプ



□ U A タイプ



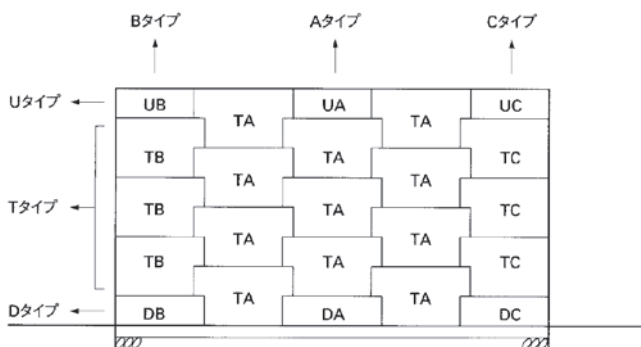
□ D A タイプ



記号	形状寸法	面積 (m <sup>2</sup> )	質量 (kg)
T A	115×1,000×1,600	1.500	351
T B	115×1,000×1,500	1.440	328
T C	115×1,000×1,500	1.440	328
D A	115× 500×1,600	0.800	200
D B	115× 500×1,500	0.745	189
D C	115× 500×1,500	0.745	189
U A	115× 500×1,400	0.700	183
U B	115× 500×1,400	0.695	182
U C	115× 500×1,400	0.695	182

※質量は参考質量です。

◆展開図



●施工手順

多数アンカー式補強土壁工法は、現場模様にかかわらず小人数で施工が可能であり、ブロックの設置を先行しながら壁体の内側で作業を行いますので、施工中の安全が図れます。

なお、この工法の安定性は、土と一体となった構造物のため、土の工学的特性に左右されます。

したがって、土のまき出し、転圧等の作業は、道路土工指針（盛土材の転圧）の基準に沿って施工してください。

1. 基礎

厚さ20センチメートル、幅40センチメートルを標準とする布状コンクリートを打設し、天端をレベルに仕上げます。また、壁面合わせのためのすみ出しを行います。



2. 壁面材設置

1段目の壁面材をすみ出しに合わせて、基礎と壁面材のあいだをモルタルで微調整しながら垂直に設置します。なお、1段目と2段目の接続はピンで合わせます。



3. タイバー取付

地盤を平らにし、壁面材に埋め込まれているインサートにコネクターを取り付け、これにタイバーを接続します。この時、ターンバックルの予備しろを確保してください。



4. アンカープレート取付

タイバーと壁面材を接続したのち、アンカープレートはタイバーと直角になるように確実に取り付けます。



5. 土のまき出し

壁面材より1メートル程度離れた場所からアンカープレート側へ、壁面材に対して並行にまき出しをします。アンカープレート付近では、アンカープレートが傾斜しないように注意してください。



6. 転圧

タイバーに対して垂直に転圧します。壁面材から1メートル以内は、小型転圧機を使用し、壁面の鉛直度を確認しながら行います。



7. 壁面調整

アンカープレート部分の転圧後、水準器とさげ振り等で水平・鉛直を確認しながら、ターンバックルにより壁面の調整を行います。

